

大学院共通科目 0A00506
「考える」動物としての人間
東西哲学からの考察

「論理的思考力」が大切だ、と教育やビジネスの場で言われています。研究の場ではいうまでもありません。「論理」は、対話や相互理解のためにも大切なツールです。その探究は、哲学者たちによって「論理学」という学問になりました。一見、非論理的に見える宗教においても、教義の正しさを説明する論理が必要とされました。「論理」そのものも、問い直されてきました。どのような論理が正しい論理なのか、どのような議論を行えば正しく意図を伝えられるのか、が議論されてきました。

グローバル化にともない、異なった社会的文化的背景をもち、異なった立場にある人どおしが理解しあうためにも、話し合いの場で論理的であることは、きわめて大切になっています。

みなさんの研究にもそれぞれの論理的思考のプロセスがあり、それを表明する論証があると思います。人文社会科学研究群人文学学位プログラムの教員とともに、ご自身の研究プロセスを振り返りながら、考えてみましょう。

2月16日（木）・17日（金）

2～6限 1C306

対面の予定、ただし状況によってオンラインに変更する可能性があります。

TWINS履修登録期間

(2023年1月10日から2023年2月16日まで)

問合せ先:教育推進部教育推進課教務グループ

E-mail : ggec@un.tsukuba.ac.jp

プログラム（予定）

16日 （西洋哲学からの考察）

プラトンにおけるロゴスとそれを超えるもの（土井裕人）

アーレントにおける思考と責任（千葉 建）

ポール＝ロワイヤル派の論理学について（津崎良典）

『風の谷のナウシカ』『進撃の巨人』からの問いー哲学、そして混沌（反論理？）（吉水千鶴子）

17日 （東洋哲学からの考察）

インドの論理学（1）（志田泰盛）

インド論理学（2）と討論術（小野基）

理(ことわり)と人道（井川義次）

西田幾多郎の無の論理（板東洋介）